



後期図書委員へバトンタッチ！

10月の委員会より前期図書委員さんから後期図書委員さんにバトンタッチされました。前期は選書会、カウンター業務、図書室おみくじなど、たくさんの仕事に一生懸命取り組んでくれました。

後期もみなさんにとって、静かに読書ができるいごこちのよい図書室作りを目標にがんばっていきます。楽しいイベントも計画中なので、2学期もたくさん図書室に来て読書を楽しんでください。



あたらし ほん

新しくはいった本

ぜんかい ひ つづ せんしよかい はい ほん がつき はい ほん しょうかい じゅんぴ ほん

前回に引き続き、選書会で入った本と2学期に入った本を紹介します。準備のできた本から『あたらしはいった本』の棚に並べていきますので楽しみに。

【絵本】

- 『ボクは「弱虫」だったから』くすのき しげのり著/潮出版社
- 『妖怪横丁大運動会』広瀬克也著/絵本館
- 『モルモットのぺるときになるおきやくさま』なかやみわ著/金の星社
- 『しんかい6500』山本省三著/くもん出版



【物語の本】

- 『ねずみのパンや おいしいはなしにご用心』上野与志著/岩崎書店
- 『参上!ヌンチャクゴリラ』川之上英子著/岩崎書店
- 『ゆうれい電車』水木しげる著/ポプラ社
- 『たとえりセットされても』森川成美著/Gakken
- 『もしもわたしがあの子なら』こと さわみ著/ポプラ社



【知識の本】

- 『物語からうまれた おいしいレシピ』金澤磨樹子監修/ポプラ社
- 『マンガでわかるスマホ脳の恐怖』川島隆太監修/金の星社
- 『それ犯罪かもしれない図鑑』小島洋祐監修/金の星社
- 『ないとどうなる?日本国憲法』木村草太監修/Gakken
- 『そうだったのか!都道府県名の由来ずかん』西村まさゆき著/ほるぷ出版



あなたは何を读みますか？

～読書の秋がやってきました～

「読書の秋」の由来は、8世紀の中国の詩人、韓愈が「符読書城南詩」という漢詩で、秋の夜が涼しく、明かりの下で本を読むのに適していることを詠んだのが始まりとされています。この漢詩は夏目漱石の小説『三四郎』でも引用され、戦後始まった「読書週間」との相乗効果で「読書の秋」という言葉が日本で広く知られるようになりました。10月27日からは読書週間もやってきます。みなさんも、「燈火親しむべし」を体験してみたいかがでしょうか。

とうかした 燈火親しむべし



お・す・す・め



●かえるのほんや
やぎたみこ
池のほとりのかえるの本屋。かえる店長がおはなし会を開きます。本があるってすてきだね。



●夢十夜
夏目漱石
幻想と哲学が交錯する夢が漱石の内面世界を映し出す短編集。一夜から十夜の不思議なお話。



●僕たちはまだ、総理大臣のことを何も知らない。
長谷部京子
総理って何者？マンガ×対話でぐっと近づく、未来を考える入口の本！石破氏のインタビューもあり！



●博物館の少女
富安陽子
明治の博物館で怪異を追う少女イカル、ミステリーと成長の物語。第2弾も出ています！

